

市民と共に七転び八起き

主催 公益社団法人日本地震工学会

人と自然と歴史に学ぶ防災論
－楽しく学び賢く防ぐ－

2014年2月7日(金)13:00～16:30

場所:パシフィコ横浜・アネックスホール2階203会場

神奈川大学工学部教授
『防災塾・だるま』塾長
荏本孝久

補足の配布資料

人的ネットワークによる防災まちづくりを提案

「防災塾・だるま」の紹介



HP : <http://darumajin.sakura.ne.jp/>

■ ネーミングについて

「地域で守ろう！みんなの命」

「防災塾・だるま」は“七転び八起き”からネーミングされました。

神奈川大学で開催された講座「地域防災まちづくり」の参加者が中心に、防災情報の共有化と人的ネットワークの構築を目的として出来たグループです。防災情報の交換、講座、イベントなど実施しています。

■ 活動の目的

- (1) 防災活動を通じて相互の防災力向上を図る
- (2) 防災の情報共有化のためのネットワークを作る
- (3) 地域社会の防災まちづくりに貢献する

これから来るであろう大災害！

生き抜くために何をどうすべきか？

■ 発足の経緯は？

1995 年の阪神・淡路大震災の教訓から、神奈川大学在本研究室で「地域防災まちづくり講座」を開催、終了後有志で勉強会「防災まちづくり談議の会」(月 1 回平日の夜)を実施、さらに実践活動に移す「防災塾・だるま」を発足させました。



■ どのような活動をしていますか？

- ①「防災塾・だるま」及び「防災まちづくり談議の会」の開催
- ②「実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座」の企画・運営
- ③学校防災及び地域防災のための協力講座の企画・運営
- ④行政に対し防災減災に関する意見提案
- ⑤各種イベントへの参加と地域防災活動への協力
- ⑥震災の復興支援と「リスクマネジメント活動」への参加
- ⑦震災被災地(神戸・中越・東北)との交流
- ⑧土木学会との交流など



「防災塾・だるま」塾長 荻本 孝久

設立 : 平成17年
会員数 : 102 人(平成 25 年 4 月現在)
年会費 : 正会員 1,000 円
賛助会員 5,000 円

連絡先 : 池田 邦昭
携 帯 : 080-5007-0885
E-mail : ikedakuniaki@c03.itsoom.net
<http://darumajin.sakura.ne.jp/>

■ どんなメンバーが参加できますか？

自治会・町内会など一般市民の防災関係者が多く、行政や NPO の自主参加もあり、防災減災ネットワークの人的拠点となっています。専門家とフランクに会話ができて、防災減災に興味があり交流を希望する人、勉強したい人であれば「何でもアリ」で気楽に参加できます。

防災塾 だるま 8周年記念

防災まちづくり談議の会100回記念

『 防災まちづくり談議の会 100回のあゆみ 』

地域の防災活動は、来るべき大震災の際の減災に大きく寄与します。

このような趣旨で、平成17年、神奈川区主催の、生涯学習講座「地域防災まちづくり全7回一」が神奈川大学で開催されました。講座修了後、受講生等を中心に、「防災まちづくり談議を楽しむ会」が発足しました。

第1回開催:2005年(平成17年)7月13日 ~ 第22回開催:2007年(平成19年)3月29日
回を重ねる中で、「まちづくり談議を楽しむ会」で交わされた意見や議題を実践活動に移す目的で、「防災塾・だるま」が発足しました。また「防災まちづくり談議を楽しむ会」も名称を「防災まちづくり談議の会」と改め、今年9月で通算100回となりました。

第23回開催:2007年(平成19年)4月25日 ~ 第100回開催:2013年(平成25年)9月27日

「防災塾・だるま」8周年、「防災まちづくり談議の会」通算100回を迎えるにあたり、「防災まちづくり談議の会」として活動した第23回~第100回までの活動を「あゆみ」としてまとめました。

*注意:発足初期の頃のデータが欠落しており、やや不正確の箇所があります

2013年(平成25年)11月

防災塾・だるま

はじめに

●1995年阪神・淡路大震災の教訓

- ・地域防災力の重要性の認識
- ・自助・共助・公助の普及
- ・防災情報の共有化と人的ネットワーク構築

●首都圏直下を震源とする大地震発生の切迫性

●地域社会の変質

- ・無防備・無関心な社会 → 困惑社会（3.11以降）

●地域防災力の向上

- ・防災まちづくりを实践できるような防災情報の共有化
- ・人的ネットワークの構築

●地域防災活動の支援

- ・「防災塾・だるま」の設立
- ・「防災塾・だるま」の活動

●「市民と共に七転び八起き」活動の必要性和重要性

災害リスクマネジメントの重要性

阪神・淡路大震災の教訓－都市型震災の複合性に関連して－

- ・ 神戸市を中心に膨大な人的・物的被害が発生した
- ・ ハードな施設で構成されたインフラストラクチャーの被害
- ・ 都市機能がマヒし、市民生活に長期的な支障をきたす
- ・ コミュニティーの集まりで成り立つ地域社会の崩壊を招く

阪神・淡路大震災の教訓－ソフトな震災対応に関連して－

- ・ 被災直後の近隣の崩壊家屋からの死傷者の救出
- ・ 住民の協働による消火活動での延焼阻止
- ・ 被災した住民が身を寄せた避難所の運営
- ・ 復旧・復興過程における市民やボランティアの支援
- ・ 「まちづくり協議会」におけるコーディネーターの活躍
- ・ ソフトな観点からの地域住民の自助・共助の重要性

震災に大きく関連する社会構造の変化

●都市化の急速な進展： 人口の密集、危険地域への居住地の拡大、
高層ビル・地下街の発展

⇒ 災害に強い都市構造の形成、防災的な土地利用への誘導、危険地域等の情報公開

●高齢化の急速な進展： 高齢者（とりわけ独居老人）、障害者、
外国人など災害弱者の増加

⇒ 防災知識の普及、災害時の情報提供、避難誘導、救護・救援対策

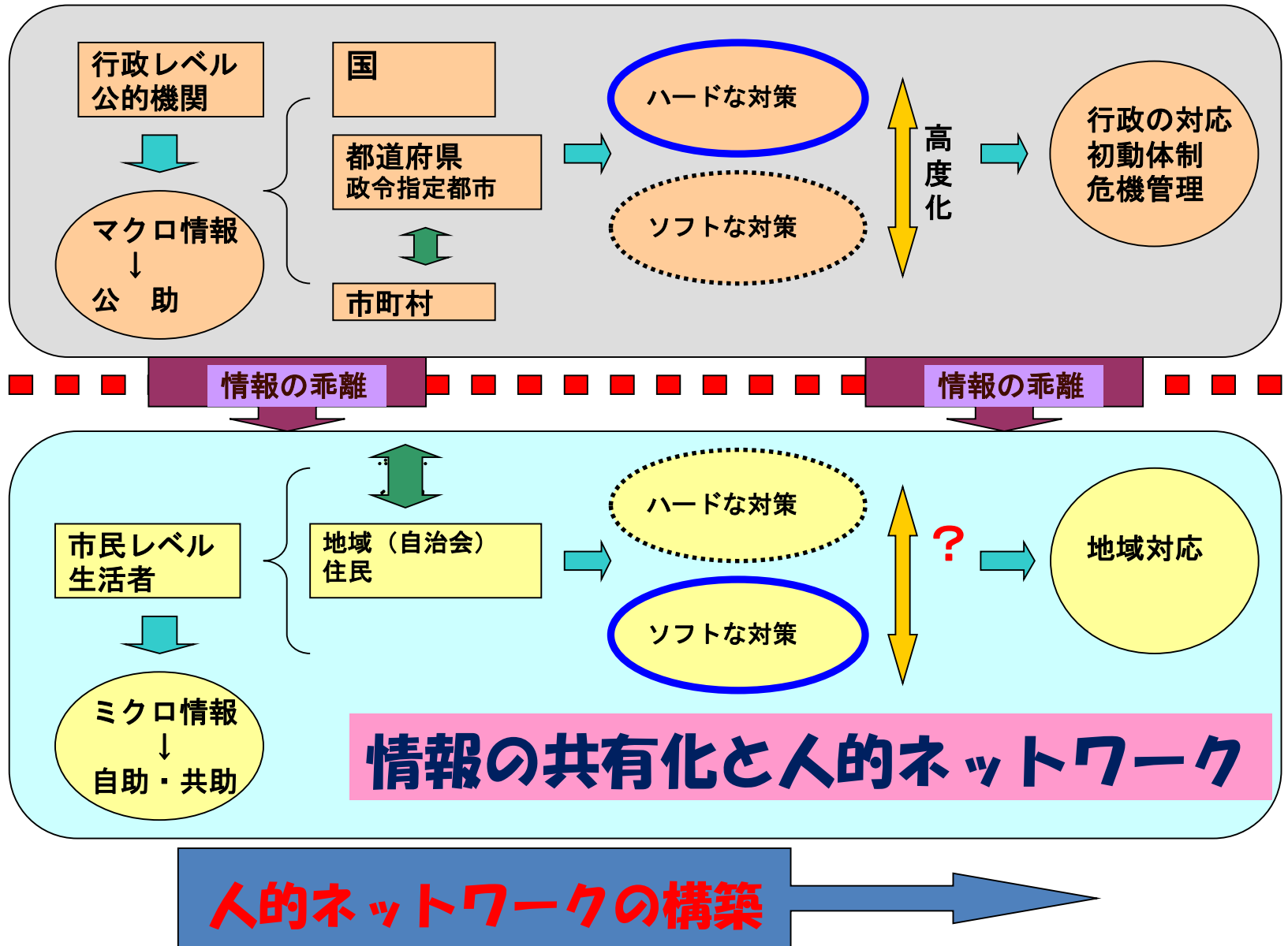
●情報化の急速な進展： ライフライン、コンピュータ、情報通信ネットワーク、
交通ネットワーク等への依存

⇒ 施設の耐震化、補完的機能の充実

●住民意識および生活環境の変化： 近隣扶助の意識の低下

⇒ コミュニティー・自主防災組織等の強化、防災訓練・防災思想の普及

社会構造の変化と情報の乖離



ハード・ソフト融合型の災害リスクマネジメント

文部科学省・学術フロンティア研究計画（2006年－2009年度）

「災害リスクの軽減を目的としたソフト・ハード融合型
リスクマネジメントの構築に関する研究」

主な研究目的：

ソフトな防災対策とハードな防災対策を合わせて災害リスクを評価・認識してリスクマネジメントを実践できる手法を開発すること

主な特色：

- ソフトな防災対策を定量的に評価するための手法の検討が必要不可欠
- ・地域の自主的な防災活動に関する情報の収集・整理
- ・情報の共有化および人的ネットワークの構築
- ・ソフトな防災対策に関しての実証的かつ実践的な調査・研究活動が重要

学術フロンティア研究の概要

我国では、地震・台風災害を始めとして自然災害が多発する。自然災害は多岐に亘り、災害の起因である自然現象と災害の誘因となる社会環境の組合わせで決まり、ハードな観点からの災害評価の問題とソフトな観点からの社会システムの現況評価の問題に関するバランスの配分によってリスクを評価して、効率的に防災性を高めて災害軽減化を図る必要がある。そのためには、**ハードとソフトな対応を考慮したリスク評価による適切なマネジメント**が重要となる。本研究は、これらを統合化する技術を開発することを目的とするもので、災害軽減化のためのリスク評価による有効なリスクマネジメント手法の構築と実践化技術の開発を実施する。

■研究領域1:

自然環境および社会環境に関わる情報抽出と情報統合化手法の構築

■研究領域2:

ハード・ソフトの防災環境のデータベース化と定量的総合化評価手法の構築

■研究領域3:

実践的防災対策の整理体系化と最適防災戦略の構築

■研究領域4:

自然災害の最適リスク評価手法の構築

■研究領域5:

自然環境および社会環境に関わる情報抽出と情報統合化手法の構築

■研究領域6:

リスクマネジメントシステムの実践的活用方法の開発

変貌する社会・経済構造の流れ

「新しい公共」 の考え方

- ・ 市民が主体となる社会
- ・ 行政機関の調整機能

グローバルな 経済・社会の進展

- ・ 格差社会の経済構造
- ・ 経済発展と復興財源

災害が多発する自然環境

災害時を含む日常時の社会・経済構造
人の繋がり・地域の繋がり・国の繋がり・世界の繋がり
↓ ↓ ↓
経済優先社会から人間優先社会への転換

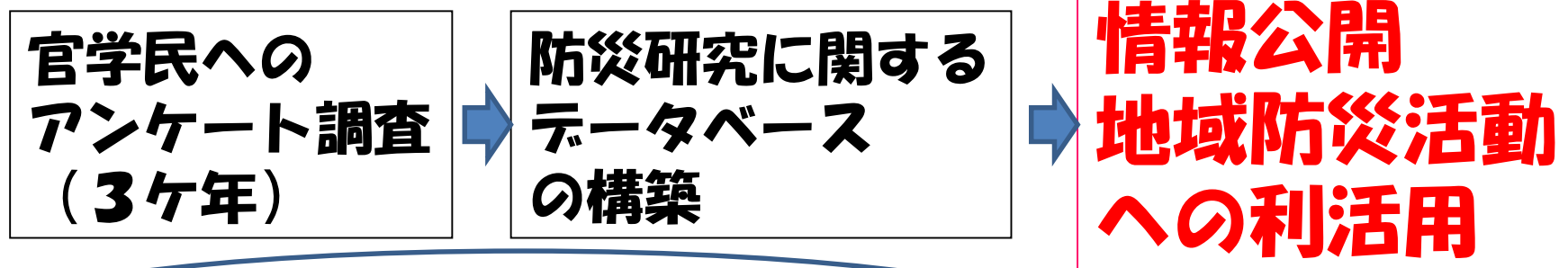
文部科学省 「地域防災対策支援研究プロジェクト」

●プロジェクト名：

神奈川県に係る防災研究データベースの活用
を起爆剤とした官学民連携による地域防災活動活性化研究

●2013～2015（3年間）

●研究代表者：防災＆情報研究所・高梨成子



『防災塾・だるま』研究分担

防災・減災中核研究拠点の形成

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業プロジェクトへの申請
申請中・2015～2019(5年)

研究代表者: 神奈川大学・荻本孝久

プロジェクト名:

専門知と経験知の融合による大規模災害に関する
防災・減災中核研究拠点の形成

●研究テーマ①

専門知・経験知の融合による防災・減災システムの構築
と見える化に関する研究

●研究テーマ②

大規模災害における社会的共通基盤のリスク認識に関する研究

●研究テーマ③

知の融合によるコミュニティ・リスク・マネジメント
の構築に関する研究

防災・減災中核研究拠点の形成

防災・減災中核研究拠点
(大学・防災センター)

研究テーマ①

大震災に関連する社会・
経済的課題の検討

研究テーマ②

大震災に関する社会的
共通基盤の課題の検討

大規模災害に関する
専門知・経験知
の融合

- ・研究者
- ・技術者
- ・行政職員
- ・企業従業者
- ・住民
- ・NPO職員

新しい防災・減災システムの検討

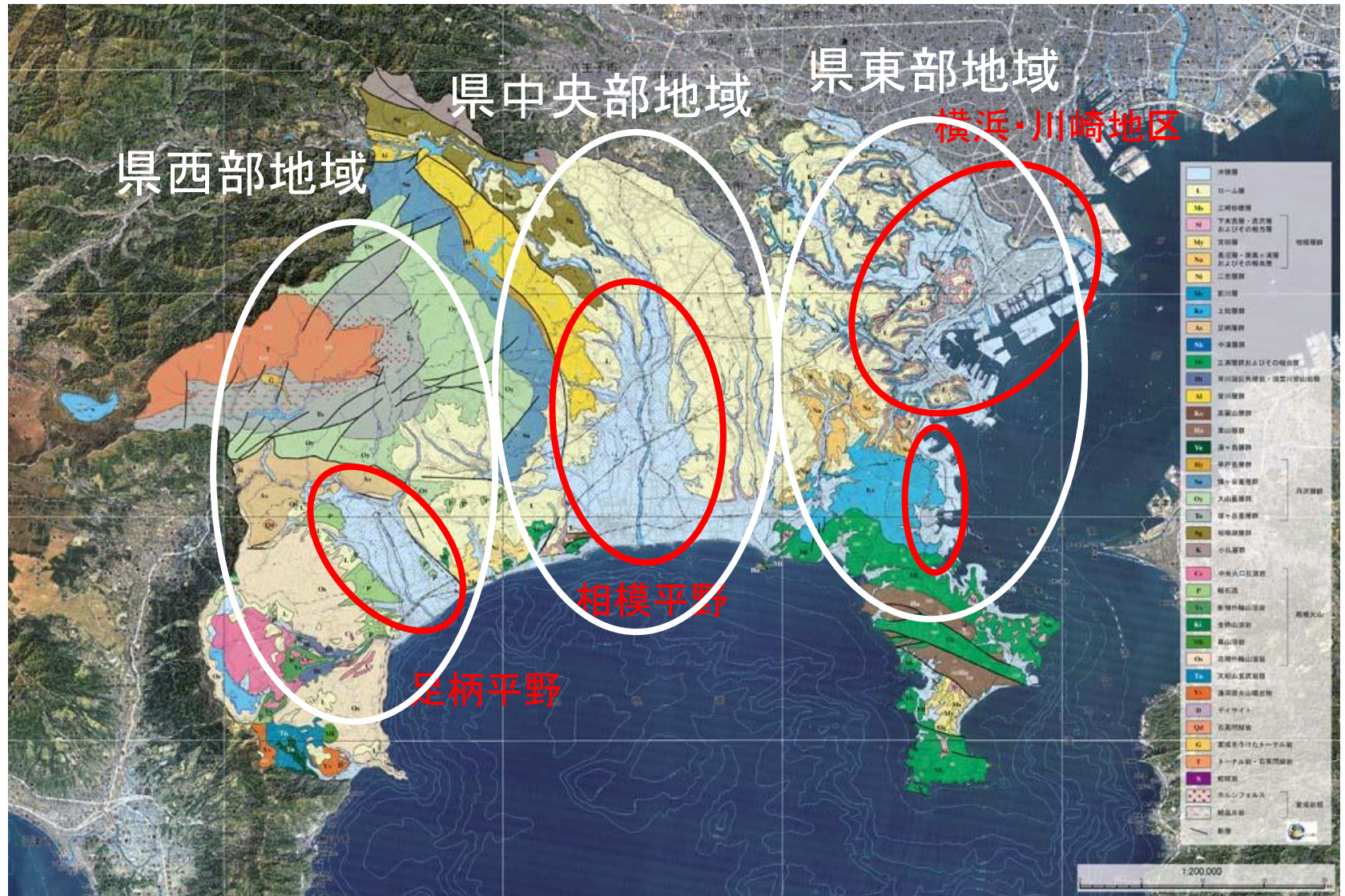
研究テーマ③

コミュニティ・リスク・マネジメントの構築

防災・減災社会の備え

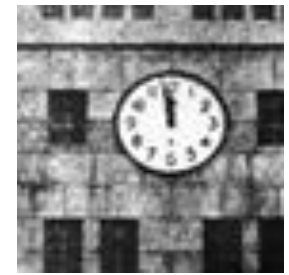
『防災塾・だるま』参画

神奈川県地域特性



神奈川県地域の特徴

－ 1923年関東大震災の教訓－



発生時間 : 1923年(大正12年)9月1日
午前11時58分32秒
震源位置 : 神奈川県相模湾北西沖80km
北緯35.1度、東経139.5度、
深さ約30km
マグニチュード: 7.9
最大震度 : 震度6(神奈川県、東京都)

死者・行方不明者 : 約10万5000人
負傷者 : 10万3733人
避難人数 : 190万人以上
住家全壊 : 12万8266戸
住家半壊 : 12万6233戸
住家焼失 : 44万7128戸
(全半壊後の焼失を含む)

現在の人口(神奈川県 約180万人)

- ・横浜市 約380万人
- ・川崎市 約150万人
- ・相模原市 約80万人

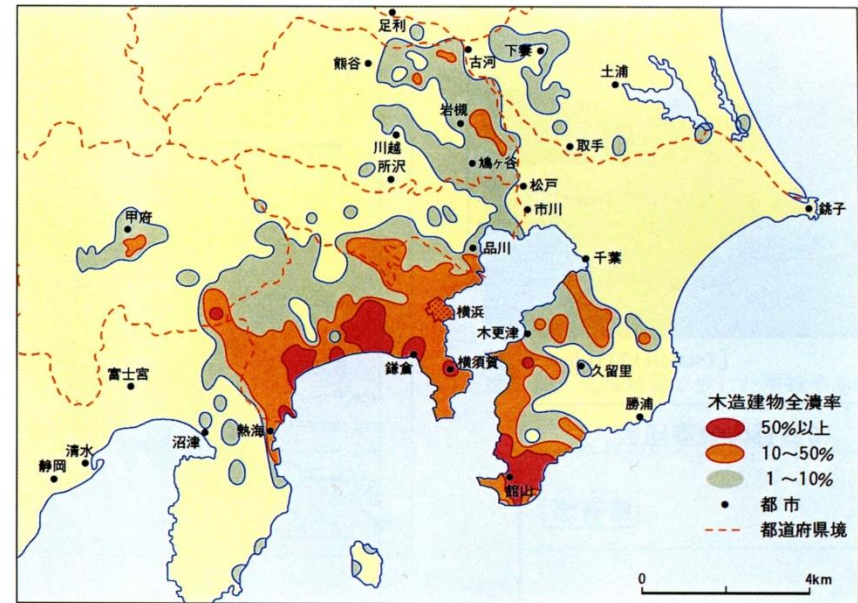
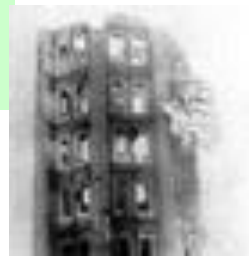


図5-11 関東地震による木造家屋全壊率

[松澤(1925)から作成]



「防災塾・だるま」設立の経緯と経過

阪神・淡路大震災の教訓を受けて、「地域の防災活動は来るべき大地震の際の減災に大きく寄与する」と認識が高まり、このような主旨で、

①2005年6月神奈川区主催の講座「地域防災まちづくりー全7回ー」の開催

- ・ 講座の終了後、受講生などを中心に「防災・まちづくり談義を楽しむ会」が自主的に発足。
- ・ 大学・行政・企業・自主防災組織・ボランティア組織の方々 を交えた会
- ・ 防災情報の共有化をテーマにして、月1回（平日の夜）のペースで定例会開催

②2006年6月「防災塾・だるま」が発足

- ・ 「防災・まちづくり談義を楽しむ会」で交わされた意見や課題を実践活動に
- ・ 「防災塾・だるま」が発足、実践的な講座の企画検討の開始

③2006年10月「防災塾・だるま」主催の防災に関するより実践的な講座の開催

- ・ 「実践的防災まちづくりコーディネータ養成講座」連続10回シリーズの開催
- ・ 受講生50名

④2007年4月「防災塾・だるま」および「防災・まちづくり談義の会」の定例化

- ・ 「防災・まちづくり談義を楽しむ会」を「防災・まちづくり談義の会」に改称

防災まちづくり 支援のための 講座内容



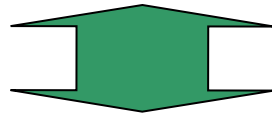
- 期間：10月～12月
(毎週木曜日)
- 時間：14:00～16:00
(2時間)

＜2006年神奈川大学生涯学習エクステンション講座＞
テーマ：実践的防災まちづくりコーディネータ養成講座：
企画「防災塾・だるま」

- 第1回 実践的防災まちづくり総論
- 第2回 地域の防災環境を知る
- 第3回 大震災の対応、復旧・復興の経験を生かす
 - ・阪神・淡路大震災の経験から、防災福祉コミュニティ
 - ・復興まちづくりにおける行政と市民の活動についての教訓
- 第4回 減災に取り組む防災まちづくり Part-1
 - ・子育て支援と防災まちづくり
- 第5回 減災に取り組む防災まちづくり Part-2
 - ・要援護者、高齢者支援と防災まちづくり
- 第6回 減災に取り組む防災まちづくり Part-3
 - ・防災対策や災害対応におけるボランティア活動と防災まちづくり。
- 第7回 減災に取り組む防災まちづくり Part-4
 - ・災害に強い建物や市街地の防災まちづくり
- 第8回 減災に取り組む防災まちづくり Part-5
 - ・情報ネットワークと防災まちづくり
- 第9回 減災に取り組む防災まちづくり Part-6
 - ・防災まちづくり先進地区の活動を紹介
- 第10回 講座のまとめ
 - ・パネルディスカッション

講座の目的と対象

- ・ 人的ネットワークによる，地域防災力の向上
- ・ 行政・大学などの研究機関・NPO・ボランティア組織の持つ，防災に関する情報の共有化



1. 一般市民（主婦など）
2. 自治会，町内会の防災関係者
3. 自主防災組織の関係者
4. ボランティア組織の関係者
5. 民間企業の防災担当者
6. 行政（消防職員など）の職員
7. 社会福祉協議会等の職員

「防災塾・だるま」の活動目標(1)

—目標として—

- ・ 地域防災力を高めて維持していくための
防災まちづくり
- ・ 多様な生活環境を持った人々の繋がりを
基本とする人的ネットワーク
- ・ 自助・共助・公助を実践するための防災
情報の共有化

—活動として—

- ・ 実践活動に利用できる講座の企画, 運営
- ・ 市民の立場から「防災まちづくり」に関
する行政への提言

「防災塾・だるま」の活動目標(2)

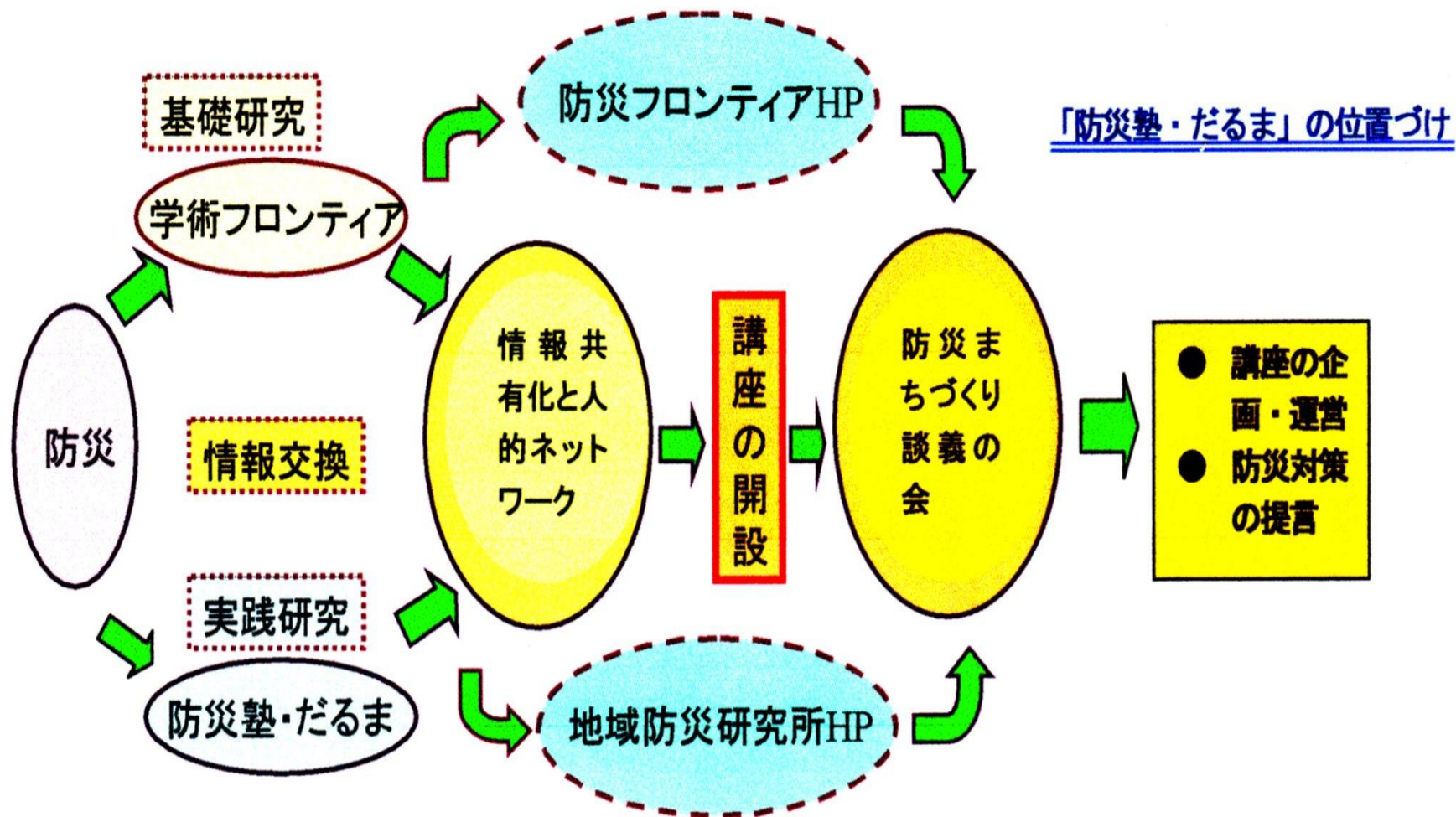
—実践として—

- ・ 秋季の講座の実施 (10回)
- ・ 秋季の県西部・県中央地区の講演会
- ・ 「神戸1.17の集い」への参加と交流
- ・ 県西部・中央部地区での講座の開催 (連続10回程度)
- ・ 「防災フェア」, 「防災訓練」, 「防災教育」への支援
- ・ 「防災塾・だるま活動報告書」の作成と公表



「防災塾・だるま」の位置付けと活動内容

2006年－2009年



リスクマネジメントのための情報とその共有化

地域防災活動支援のための実践的活動内容

年 度	活 動 内 容
2006年	第1回「実践的防災まちづくりコーディネータ養成講座」(10回開催)
	「防災塾・だるま」定例会(12回開催)
	「防災まちづくり談義の会」(12回開催)
	「1.17神戸の集い」参加
2007年	第2回「実践的防災まちづくりコーディネータ養成講座」(10回開催)
	「防災塾・だるま」定例会(12回開催)
	「防災まちづくり談義の会」(12回開催)
	秦野市防災講演会
	「防災塾・だるま」2周年記念防災講演会
	大井町防災講演会
	「1.17神戸の集い」参加
	神奈川県防災ギャザリング
2008年	第3回「実践的防災まちづくりコーディネータ養成講座」(10回開催予定)
	「防災塾・だるま」定例会(12回開催予定)
	「防災まちづくり談義の会」(12回開催予定)
	大井町防災講座「防災まちづくりコーディネータ養成講座」
	横浜市都筑区防災セミナー
	「防災塾・だるま」3周年記念防災講演会
	相模原市防災シンポジウム
	横浜市金沢区工業地区地域セミナー
	「1.17神戸の集い」参加(予定)
	神奈川県防災ギャザリング(予定)

防災情報の共有化の内容と方法

共有化する情報の内容

- ・ 地域の防災活動・防災訓練
- ・ 行政機関の防災施策
- ・ 災害の基礎知識
- ・ 地域防災活動の課題・問題点

詳細マップの作成

- ・ 揺れ易さマップ
- ・ シナリオ地震の震度分布
- ・ 地震災害危険度マップ
- ・ 洪水マップ
- ・ 強風マップ

HPの開設

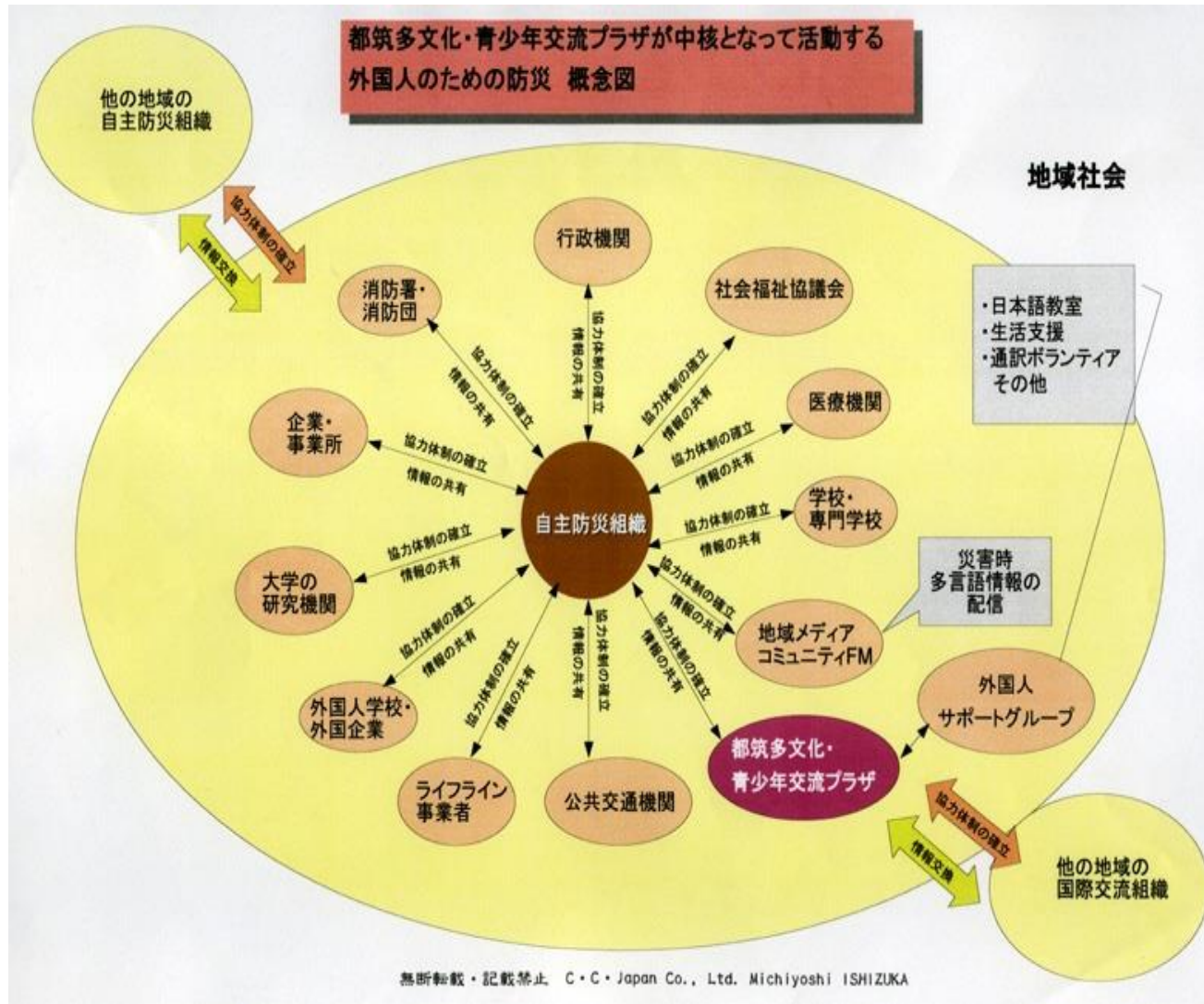
- ・ インターネットの活用
- ・ URL : bousai-frontier.net

情報の公開

- ・ 「防災塾・だるま」定例会
- ・ 「防災まちづくり談義」定例会
- ・ 講座、講演会、セミナーの開催
- ・ 見学会

リスクマネジメントのための人的ネットワークづくり

都筑多文化・青少年交流プラザが中核となって活動する
外国人のための防災 概念図



地域の防災活動



- ・ 自主防災組織
- ・ 行政
- ・ 企業
- ・ NPO
- ・ 学校
- ・ 社会福祉協議会
- ・ 各種団体
- ・ 任意団体
- ・ ボランティア



相互交流による 人的ネットワーク

「防災塾・だるま」の活動実績(設立初期3年間)

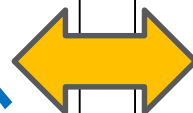
- 講座の開催：3年間（毎年秋季1回・10週間）
毎年40～50名受講
- 講演会：
 - ・秦野市防災講演会（2007年11月）約400名
 - ・大井町防災講演会（2008年2月）約450名
 - ・その他、地域防災教育・防災訓練での交流会
- 防災訓練の見学会
 - ・横浜市内、近隣市町の自治会主催の訓練
 - ・横浜市、神奈川県主催合同訓練
- 「神戸1.17のつとめ」への参加・神戸の体験学習（3回）
- 横浜市危機管理セミナーへの参加（2008～2009年）
- 定例会：
 - ・「防災塾・だるま」毎月1回（通算約45回）
 - ・「防災まちづくり談義の会」毎月1回（通算約50回）
- 会員数：
 - ・「防災塾・だるま」65名（2009年5月現在）
 - ・「防災まちづくり談義の会」約200名

「防災塾・だるま」の現状と活動内容

2010年－現在に至る ⇒ <http://darumajin.sakura.ne.jp/>

『防災塾・だるま』の 活動のインフレーションと進化

- ・会員:106名(2013年12月現在)
- ・組織:役員会(年間の運営方針)
- ・規約(ルール)の設置
- ・会費(年間1,000円)→活動費へ
- ・HPの開設(情報の共有化)
- ・会員相互のネットワーク
- ・被災地の視察・交流
(神戸・中越・東北)
- ・会員各自の自主的な活動による
情報の提供・交換



『防災塾・だるま』の財産

- 行政等からの支援・協力と協働
 - ・横浜市安全管理局
(現、総務局・消防局)
 - ・神奈川県安全防災局
 - ・横浜市各区役所
 - ・神奈川県各市町役所・役場
 - ・社会福祉協議会
 - ・神奈川災害ボランティアネット
 - ・横浜市立小中学校
 - ・神奈川県建築士会女性委員会
 - ・横浜青年会議所

『防災塾・だるま』のいろいろな活動

- 『防災塾・だるま』定例会 → 2006～(毎月1回)
- 『防災まちづくり談義の会』 → 2006～(毎月1回)
- 『防災塾・だるま』役員会 → 2008～(毎月1回)
- 『防災塾・だるま』設立の周年記念イベント → 毎年1回
- 防災機関の見学会(横浜市危機管理センター、神奈川県警察本部etc)
- 実践的防災まちづくりコーディネータ養成講座 → 2006～(毎年秋期)
- 「神戸の集い」への参加 → 2008～(毎年1月17日・神戸市)
- 被災地への訪問 → 随時開催
 - ・阪神・淡路大震災(神戸、淡路島) → 2008
 - ・中越地震(長岡) → 2010
 - ・東日本大震災(第1回:岩手・宮城、第2回:石巻・女川) → 2012
- 平塚市市民協働事業への協力(平塚防災まちづくりの会) → 2011～
- 防災ギャザリングへの協力 → 毎年1月
- 足柄上郡大井町防災講座への協力 → 2007、2013
- 横浜市立港中学校の防災教育への協力 → 2013～
- 横浜市中区防災事業への協力 → 2013～
- ゲーム・クロスロードの指導・普及 → 2007～(随時)
- ゲーム・J-DAGの開発・普及 → 2012～(随時)

「神戸のつどい」参加報告 (2011年1月16日～18日)

1. 阪神高速株式会社「震災資料保存館」
2. 芦屋市危機管理室訪問
3. 松山氏（元神戸市職員）と会食
4. 「神戸のつどい」参加
5. 「神戸市震災記念公園」視察
6. 神戸大学「都市安全センター」「震災文庫」訪問



「神戸の集い」参加ツアー・企画

2012 年 震災から学ぶ様々な施設（兵庫県内）

詳細は各施設のHPを参照下さい！

1. 人と防災未来センター（神戸市中央区）
 - ・ 震災を体感し防災を学ぶ（有料：1月17日は無料）
 - ◎ 同資料室（無料：人と防災未来センター5階）
 2. 兵庫県広域防災センター（三木市）
 - ・ 災害の備えを考える（無料：要予約）
 3. 北淡震災記念公園（淡路島：淡路市）
 - ・ 震度7を体感する（有料）
 4. E・ディフェンス：兵庫耐震工学研究センター（三木市）
 - ・ 世界最大級！実大三次元の振動実験施設（要予約；防災科学技術研究所）
 5. 震災資料保管庫（神戸市東灘区）
 - ・ 地震で失ったもの、伝えるべきもの、・・・（完全予約制）
 - 平成11年開設 2010. 1. 17（平成22年） リニューアル（阪神高速道路（株）の資料）
 6. 神戸港震災メモリアルパーク（神戸市中央区）
 - ・ メモリアルパークの岸壁の一部を被災当時のまま保存
 7. みなとのもり公園（神戸市中央区）
 - ・ 神戸震災復興記念公園（震災から15年目の2010.1.17開園）
 8. 神戸大学附属図書館、震災文庫（神戸市灘区六甲台2-1） 六甲台キャンパス
 - ・ 社会科学系図書館 2階メインカウンターで手続き どなたでも利用可
 9. 野田北部・たかとり震災資料室（無料：神戸市長田区）
 - ・ 野田北ふるさとネットが2009.1.17開設
 10. 長田南部（神戸市長田区）
 - ◎ 鉄人28号 モニュメント：高さ15m 重量50t（地下鉄・JR新長田）
 - ◎ 神戸市立地域人材支援センター（旧 二葉小学校）
 - “震災体験学習”等の活動を実施している
 11. 協働と参画のプラットホーム（神戸市役所 1号館24階）
 - ・ 市民の皆さんとの取組みを紹介する
- HP—
- 神戸市のHP：震災資料室—阪神・淡路大震災の記録
- ・ 各種資料が神戸市のHPより調べられます

**だるまHP だるま事業
の活動参加・見学/23年
度/神戸から学ぶ よい**

『防災塾・だるま』企画・講座

KU 神奈川大学

2013年 後期ガイド

生涯学習・エクステンション講座

公開講座のお知らせ
文化・教養



KU KUポートスクエア
神奈川大学 みなとみらい エクステンションセンター
■KUポートスクエア 横浜キャンパス 鶴岡南ひらつかキャンパス

The 85th Anniversary
85th
KANAGAWA UNIVERSITY

実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座

KUポートスクエア

<メイン/テーマ> 地域にいかす「防災・減災の知識・知恵」を学ぶ

本講座は神奈川大学と「防災塾・だるま」が共同で企画し、提供するものです。

※「防災塾・だるま」とは「七転び八起き」からネーミングされました。あらゆる防災活動を通じて会員相互の防災力の向上を図るとともに、防災に関わる情報共有のためのネットワークを構築し、地域社会の防災まちづくりに貢献することを目的とした市民防災の活動グループです。

内容

本講座「実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座」の初回は2006年に開催され、今年で8回目を迎えました。

1923年の関東大震災から90年、1995年の「阪神・淡路大震災」から18年が経ちましたが、その後、幾つもの大震災が発生し、2年前の東日本大震災では多くの犠牲者をだしました。その間、国も市も災害に対する被害想定の見直しを迫

られ、今年になって、「横浜市防災計画」の改訂版が発行されました。横浜市は防災対策を大幅に見直し、各地域はそれに基づき、「住民を守る体制の再構築」が求められています。そして、さらに多くの市民の協力が要求されています。

この講座は、「自分達の町は、自分達で守る」防災・減災活動に、貢献できる人材の育成を目指します。

定員/会場

50名 ※先着順に受け付け、定員に達し次第締め切ります。

KUポートスクエア

9/3(火)~10/10(木)

※申込期間後も定員に余裕がある場合は、受け付けます。

※定員に満たない場合は、開講できないことがあります。

※お申し込み・お問い合わせはp.58をご覧ください。

受講料

5,000円(4,500円)

※受講料には、資料代および消費税が含まれます。

※()内の受講料は、神奈川大学生・卒業生等および協議会加盟大学在学学生(p.6)に適用される料金です。

※受講者区分が一般で、前年度、生涯学習・エクステンション講座の受講歴(一部講座除く)がある方は、受講料を5%割引きます。

講座日程

※講師の緊急な都合などにより日程等を変更場合があります。

【開講時間】 13:30~17:00 全6回

回	開講月日	担当講師	テーマ/概要	連絡先
1	10/24(木)	荏本 孝久	近々くと想定されている「首都圏大地震の被災規模とひび迫性」を学ぶ 前半：大地震はどんな被害をもたらすのか、何時頃来ると想定されているか、を学ぶ。 後半：受講生の自己紹介を含め、地域の防災・減災活動の現状を話し合う。	連絡先：成松 洋、山田 美智子
2	10/31(木)	佐藤 栄一	被災地から学び、地域に活かす。 前半：被災地で聞いたことや体験したことの説明から、それを地域で活かすことを学ぶ。 後半：受講生は被災地の状況を聞いた後、わからない事、疑問に感じた事を、質問を交え体験者から直接聞く。	
3	11/7(木)	小野寺 勝	横浜市の「防災計画」を学ぶ 前半：多くの災害から被害想定を繰り返す、市民を守る為に改訂した「防災計画」を説明する。 後半：「防災計画」を聞いた後、質疑応答・意見交換会にて内容を習熟する。	
4	11/14(木)	白田 克雄	地域での防災活動実践者の話を聞き、地域に活かす術を学ぶ。 前半：地域の防災活動の現状(自主防災組織の体制、活動内容等)を説明する。 後半：自分の地域と何処が違うか、どうしたら防災活動を充実できるかを質疑応答を交え学ぶ。	
5	11/21(木)	片山 晋	命に関わる防災直後の1時間について考える。 前半：「防災直後の1時間」に、①何が起るのか、②我が地域で何をすべきか、③自分はどう行動するか、などを学び、J-DAG(防災直後の行動ゲーム)を通して模擬体験する。 後半：ゲーム後の意見交換会にて、我が地域の取り組みについて考える。	
6	11/28(木)	高松 清美 田中 喜世美 山田 美智子	首都圏大災害を想定し、対策を学ぶ。 前半：①かならず来る「首都圏大災害」の想定される被害を学ぶ。 ②自分の地域で、防災活動に参加し地域貢献をする手段を学ぶ。 後半：①講座全体の講評 ②アンケート記入 ③講座修了証書授与	

講師紹介

佐藤 栄一(消防科学総合センター(一財)防災図上訓練指導員)／小野寺 勝(横浜市総務局危機管理室危機対策計画課長)／荏本 孝久(神奈川大学工学部教授、防災塾・だるま塾長)／池田 邦昭(まちづくりネットワーク総役員)／白田 克雄(元南区六ツ川地区連合防災部長(チーム防災六ツ川代表)、だるま理事)／片山 晋(防災を考える会・磯子代表、だるま理事)／高松 清美(NPO法人神奈川県災害ボランティアネットワーク理事、だるま理事)／田中 喜世美(神奈川区白幡地域防災拠点運営委員、だるま理事)／山田 美智子(ひらつか防災まちづくりの会役員、だるま理事)／成松 洋(郡県災害ボランティアコーディネーター、だるま理事)／伊東 幸保(神奈川区二ツ谷町会防災部長、だるま理事)

KUポートスクエア

横浜キャンパス
開催地

湘南ひらつかキャンパス

講座(最終回) のレポート

神奈川大学生涯学習 エクステンション講座【2013年後期】

本講座は神奈川大学と「防災塾・だるま」が共同で企画し、提供するものです。

講座運営委員会・伊東委員長



2013年実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座

《講義録6限目》

投稿者：中島光明

《講座のメインテーマ》

地域にいかす「防災・減災の知識・知恵」を学ぶ-2013

◆日時：2013年11月28日(木) 13:30-17:00

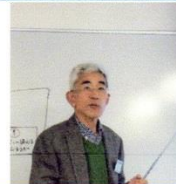
◆会場：KU ポートスクエア

◆本日のテーマ◆

首都圏大災害を想定し、対策を学ぶ

講師 高松清美さん、成松洋さん、山田美智子さん、田中喜世美さん(防災塾・だるま 理事)

- ①必ず来る「首都圏大災害」の想定される被害を学ぶ
- ②自分の地域で、防災活動に参加し地域貢献をする手段を探る
- 講座全体の講評



- ★「関東大震災と阪神淡路大震災の惨事」をDVD映像で、関東大震災における「横浜が全滅するまで」のグラフィア写真を紹介し、改めて地震の脅威を訴えた 成松講師
- ★首都圏に迫る大災害を「横浜市の被害想定」の見直しから再認識を訴えた 山田講師
- ★自分の地域から「防災・減災活動をする術」を学ぶ(地域にある大震災慰霊碑) 田中講師

「科学や地震学は万能ではなく、地震から人間を守ってくれるものは無い」(武村先生談)



《グループ別テーマで熱い議論が展開》

グループ1＝地震への備えは十分だろうか...

発表：心の備えが一番

グループ2＝地震が起きたらどう行動するか...

発表：自分の判断で行動する(日常から考えておく)

グループ3＝周りのためにできることが私にもある...

発表：自分が先頭に立ってまとめてゆきたい(自治会)

荻本先生



防災四文字熟語

・油断大敵 ・用意周到 ・臨機応変
・沈着冷静 ・相互扶助

養成講座の終了記念



《荻本先生からの講評》

防災・減災は、皆さんが持っている知識が総てです。

◇自分で悶々と考えていても駄目、皆と話し合っ顔の見える関係をつくること。

◇自分から情報を取りに行くことが大切です。

◇重要なこと：①心の備え

②臨機応変、②自治会の活性化

だるまHPより

『被災地をめぐる』報告書

東日本大震災1周年企画「被災地をめぐる」

(2012年3月14～16日)

報告書

目次

	ページ
I. 「被災地をめぐる」……荏本塾長	1
II. 経過 “皆さんの思いで実現！”……池田さん	3
III. 「被災地をめぐる」企画概要……佐々木さん	4
IV. 活動報告	
第1日目 3月14日(水)「岩手」……田中(晃)さん 普代～田野畑～田老～宮古～山田町	5
第2日目 3月15日(木)「岩手～宮城」……小原さん 山田町～大槌～釜石～大船渡～陸前高田～気仙沼	9
第3日目 3月16日(金)「宮城」……鶴谷さん 気仙沼～南三陸町～松島～名取	13
V. 交流会報告	
山田町交流会 3月14日(水)……片山さん	16
気仙沼交流会 3月15日(木)……添田さん	19
VI. 岩手県庁復興局訪問レポート「岩手県の被害とまちづくりの再構築」……田中(晃)さん	22
VII. 「被災地をめぐる」報告会・討論会(記録)	25
VIII. 「東日本大震災から1年 被災地をめぐる 点と線:百聞は一見に……」……池田さん	31

<資料編>

1. 「東北地方太平洋沖地震に係る人的被害・建物被害状況一覧」(岩手県総務部総合防災室)
2. 「平成23年東北地方太平洋沖地震の被害状況と警察措置」(警察庁緊急災害警備本部)
3. 「大津波からの避難の実態調査…何故多くの方が亡くなったのか？」
(東日本大震災津波避難合同調査団)
4. 「沿岸8市町村2500人避難・本県に一時津波注意報」(岩手日報2012年3月15日朝刊)
5. 「道路の『ひきかい啓開

道路の『ひきかい啓開』:

東日本大震災の災害対応で注目すべき大きな特徴に、広域の津波災害という激甚災害で緊急の災害対応は困難を極め、陸海空からの災害情報を元に陸からのアクセス確保するための「道路啓開」が「櫛の齒」作戦という形で展開されたことがあります。今後、首都圏直下の大震災や西南日本の三連動型巨大地震が発生した際の東京・横浜・川崎などの大都市における災害対応も、この「道路啓開」のオペレーションに大きく依存することは必至だと言われています。

『防災塾・だるま』HPより

東日本震災被災地訪問(第2回)

釜石～石巻・女川 (2012年8月30日～9月2日)

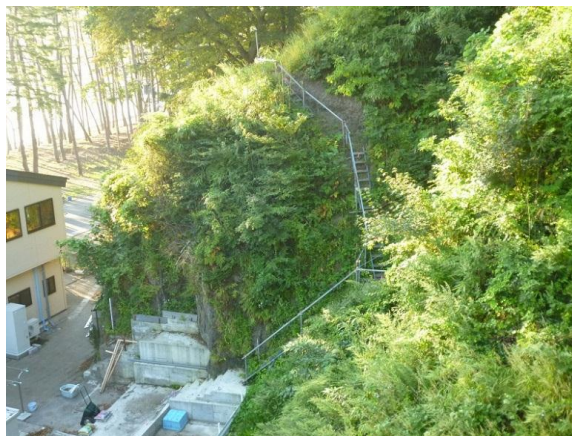


鶴住居
(中学校)

花巻駅～（JR）
～釜石駅～鶴住居



鵜住居（宝来館）



東日本震災被災地訪問(第2回)



第18共徳丸
(気仙沼)

防災対策庁舎
(南三陸町)



きぼうのかね商店街



高田松原(陸前高田)



被災された方々
との交流



大川小学校(石巻市)



女川町立病院



石巻港
日和山公園より

横浜市立港中学校「防災教室」報告

横浜市立港中学校「防災教室」2013年(平成25年)2月28日(木)

— 報告 —

経過

- (1) 防災教室に先駆けて1月8日(火)に教職員研修会を実施し、先生方の防災意識の共有をはかった。
- (2) 港中学と防災塾・だるまで、初めての試みとなる防災教室のねらいと進め方をすり合わせた。
- (3) 教材として関東大震災と阪神淡路大震災の画像・映像をだるまが準備することとなった。
- (4) 高松リーダーの呼びかけで、2月28日(木)当日は14名のだるまメンバーが参加・協力した：
荏本(塾長)・高松(リーダー)・池田・片山・森・加藤(清)・山口(昭)・佐々木・田中(喜)・中島・中村(茂)・小原・山田(美)・成松 (敬称略)

防災教室の概要

- ◆日時：2013年1月28日(木)
6校時(14:25~15:15 50分)
- ◆対象：1年生(3クラス) 計7クラス
2年生(4クラス) (約230名)
- ◆場所：それぞれのクラスの教室で実施。

◆50分授業の展開：

- 0~10分 授業の説明・だるま紹介・あいさつ
- 10~20分 ビデオ(阪神淡路大震災)と写真(関東大震災)の視聴
- 20~45分 ワークショップ
グループでまたはクラス
全体で意見を出し合い、
ワークシートに記入。
- 45~50分 まとめ・グループ発表

《ワークショップ》

- ・・・グループに分かれて話し合う・・・
- ☆自分の身を守るためには何をすべきか？
- ☆災害を広げないためにどんな行動が必要か？

《今回の防災教室のねらい》

関東大震災と阪神淡路大震災の被災状況の特徴と地域の特性を画像・映像から学び、東日本大震災と比較し、それぞれの違いを考えることを通じて、

- ① 大地震発生から火災に発展する災害について学ぶ。
- ② 大地震に遭遇した時の行動について考える機会とする。

写真とビデオで大震災を見る：

関東大震災(1923年9月1日)
(震源に近い横浜では壊滅的被害)
阪神淡路大震災(1995年1月17日)
(大都市が倒壊、密集地で火災)



関東大震災では、山下町や中華街でも建物は倒壊し、焼け野原となった。



《だるまメンバーの役割》

- ・クラス担任が主導して授業を展開し、だるまメンバーは各クラスに2名がファシリテーターとして入り、質問に答えたり、防災についてアドバイスして担任をサポート。

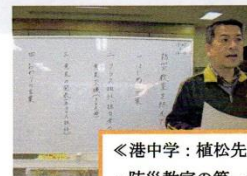
グループ発表



まとめ



終了後に防災教室をふりかえり



《港中学：植松先生》

- ・防災教室の第一歩が踏み出せました。

だるまHPより



港中学や自宅で大地震に遭遇したら：
「避難場所の確認」
「食料の確保」……。

《港中学校の特性》

- ◆学区内に中華街・元町商店街・山下公園等の観光地がある。
- ◆地域防災拠点となっている。

★何よりも大切なのは、命を守ること。

★地域の危険・地域の特性を知る。

★臨機応変な判断力を養う。

(最後に、横浜市消防局「減災行動のススメ」を配布)

◆東日本大震災では自分たちはどう行動したのか、その経験から生徒たちは防災に関心を持っている。

◆外部から防災を知るだるまメンバーに参加してもらったことは良かった。だるまの人の話をもっと聞きたいとの声もあった。

◆画像・映像もインパクトがあった。(画像・映像の見せ方については意見・要望も出た。)

◆今回の防災教室を来年度以降にどうつなげていくかが重要。港中学としては、次のステップとしてマップ作り等を考えており、だるまの助言を得たい。

《荏本塾長》

- ・防災教育は積み重ねていくことが大切。
- ・だるまには防災意識の高いさまざまな人材がいる。防災塾・だるまの新しい地域貢献の取り組みとして、ノウハウ・資料なども整備していきたい。

《高松リーダー》

だるまメンバー多数の協力ありがとうございました。



まとめ

●地域防災力を高める有用な方策

情報の共有化と人的ネットワークの重要性

●継続実施のためのツール開発

- ・地域の防災教育プログラムの開発
- ・リスクコミュニケーションの推進
(コーディネータとしての人材育成)
- ・地域防災活動の自己診断カルテ
- ・防災教育のテキストの開発
- ・地域の「防災マップ」作成ツール

－今後の課題として－

- ・情報と人の交流の場の確保（内容差と個人差）
- ・高度な情報の継続的な学習と習得（実践的）
- ・共有すべき情報の内容と公開（座学か実学か）

おい

ご静聴、有難うございました!!